

2026年度 第3回 藤沢市立善行中学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2026年 10月 6日（金） 10時～

場 所 善行中図書室

出席委員	山口 燿子（善行地区自治会連合会会長） 亀谷 亀雄（会長・社会福祉協議会理事） 人見 甲子郎（NPO 法人森の仔じゅうがっこう事務局長） 石塚 義之（善行市民センター センター長・善行公民館 館長） 佐藤 康智（善行市民センター所属） 齊藤 正枝（コーディネーター・三者ふれあいネットワーク会長・青少協会副会長） 松本 美由紀（前社会福祉協議会（CSW）） 熊谷 晴香（社会福祉協議会（CSW）） 大林 文（民生委員 主任児童委員） 小澤 優子（善行中学校前PTA会長） 安室 康子（副会長・校長） 大村 裕美子（教頭） 【欠席者】 渋谷 弥生（一般社団法人善行大越スポーツクラブ アシスタントマネージャー） 幕内 由紀（善行中学校PTA会長） 實方 桂子（生徒支援担当） 【傍聴者】 なし
次第	1 開 会 2 善行中学校の様子 3 議 題 (1) 今年度の取組について ・各グループ協議 ・全体情報共有 (2) その他 ・試食会について ・連絡手段すぐる登録について 4 閉 会
協議内容	1. 開会・挨拶 ・次第に沿って進行することを確認。 2. 学校の様子と教育活動報告 - 合唱コンクール：各学年のそれぞれの良さがあり、今年度は混声合唱団の発表もあり、素晴らしい合唱コンクールが実施できた。ただ、インフルエンザ等の体調不良生徒も多く、急遽マスク着用という対応をとった。 - 文化発表会：授業や部活、教科の成果の展示や委員会や3年総合の防災学習の発表もあり、盛り上がった。 - 部活動・大会：夏の大会が開催され、テニス部などが奮闘している。3年生が少ないチームでも下級生を牽引して活動している。 3. (1) グループ協議報告 ○防災グループ：防災学習の取り組み成果と小中連携の推進

学校における防災教育の成果発表、および地域・小中学校の連携について報告と意見交換が行われた。

- **善行地区総合防災フェアについて：**

- 3年生が「総合的な学習の時間」に継続して取り組んできた防災学習の成果発表（秋田先生中心）が行われ、発表会場の部屋に入りきれないほどの参加者を集め盛況となった。
- これまで歴代の校長（高森前校長等）や歴代協議会会長（亀谷前会長、植木会長、山口氏等）を中心に、学校運営協議会の中で継続して防災をテーマに協議を重ねてきた蓄積が、生徒の具体的な行動や成果として結実したと評価された。

- **生徒の参加促進と時期調整の課題：**

- 生徒の行事参加においては、「1人で参加するのは心理的ハードルが高いが、友人同士で誘い合うことで参加しやすくなる」という生徒の声が確認された。
- 文化発表会の形態変化（従来の模擬店やお化け屋敷等から探究型・発表型へのシフト）に伴い、地域行事へのボランティア参加が生徒の貴重な成長の場となっている。
- 一方で、10月頃は部活動の新人大会（サッカー、バスケットボール等）と時期が重複し、教員の引率や1・2年生の参加が難しくなる課題が指摘された。今後、実施時期について学校側と調整を進める。

- **小中連携の広がり：**

- 中学生が小学校を訪問してポスター掲示やイベントへの参加呼びかけを行った結果、多くの小学生が防災イベント（防災部活動等）に参加するなど、小・中が防災を軸に結びつく良好な連携関係が構築されている。

○行事・ボランティアグループ：ボランティア募集結果および今後の行事計画

地域イベントにおける中高生ボランティアの募集実績、効果的な広報手法、および今後の出展・交流計画が報告された。

- **「善行ふるさと祭り」ボランティア募集成果：**

- 中高生ボランティアの応募数が総勢25名（うち善行中学校生徒6名）に達し、前回の応募者数（約3名）から大幅な増加を達成した。
- **大幅増につながった3つの工夫：**
 - 1) **AIを活用した広報制作：**AIツールを活用し、「タピオカ」を全面に打ち出した視覚的インパクトのあるポスターを制作・校内に掲示。
 - 2) **ボランティア証明書の発行明記：**参加実績として評価されるボランティア証明書を授与することを広報段階から明記。
 - 3) **イベントごとの分割募集：**通年の括りではなくイベント単体（今回は「ふるさと祭り・タピオカ手伝い」に特化）で募集を実施し、参加の心理的ハードルを下げた。

- 今後の行事出展および活動計画:

- 11月7日(土) 善行団地秋祭りについて

- 1) 団地内に設置されている「かまどベンチ」を活用し、焼き芋、豚汁、などを提供する「防災ブース」を出展予定。
- 2) チラシ・ポスター等で事前に周知を図り、中学生ボランティアの協力(証明書発行含む)を得ながら実施する。

- 11月カルタ大会: 文芸部を中心とした生徒協力のもと実施予定。

- 3月子どもフェスティバル: 改めてボランティア募集を行う。

- 障害理解・福祉啓発への展開: 防災の観点と結びつけ、車椅子体験や障害のある方への理解啓発活動(2月の日常サポーター講座等)をボランティア活動と連携して展開する構想が共有された。

○支援グループ: 保護者セミナー・座談会の振り返りと次回に向けた改善案

- 8月23日(日) 保護者セミナーの成果:

- 参加者数7名。内訳は中学校保護者3名、小学校保護者4名。
- 対象参加範囲を小学校5・6年生(高学年)まで拡大したことが参加者増加に寄与した。今後、専門職(心理カウンセラーやCSW)への相談機会として認知され、口コミによる広がりが期待されている。
- 構成: CSW(コミュニティソーシャルワーカー)熊谷委員よりフードバンクや公的相談窓口等の地域支援情報の提供後、人見委員に参加者の悩みを汲み取るセッション形式の座談会を実施。開始10分ほどで深い対話が生まれ、安心感をもって持ち帰っていただける場となった。

- 11月14日(土) 次回セミナーに向けた改善点:

- 場所を中学校に移して実施予定。
- 前回の振り返りとして、冒頭で情報を一括提供するスタイルではなく、次回は、「座談会の対話の中で出てきたキーワードや課題に応じて、必要な情報を提供する手法」に変更する。

- 人見委員より 防災について

- 知識としての防災だけでなく、日頃の運動や多様な体験(キャンプ等)を通して培われる「いざという時に自分で動ける身体能力と、周囲に声をかけられる自信」の育成が不可欠である旨が共有された。子どもたちが自信を持てる体験機会の重要性が確認された。

3.(2) その他

- 学校給食の試食およびアンケート協力:

- 会議に合わせ、参加者8名による学校給食の試食を実施。
- 学校給食課発行の「給食だより」や中学校給食利用案内が紹介され、試食後の感想アンケート(QRコードによる回答)への協力が依頼。

- **連絡手段のデジタル化（すぐーる登録）：**
 - 連絡手段を効率化・一本化するため、すぐーるへの登録案内を行った（現時点での登録者は委員・教員含め9名）。未登録者への案内用紙再配布と登録サポートを実施。
- **他校コミュニティ・スクール取り組み事例の共有：**
 - **事例1（PTA・他団体との連携）：** コミスク委員とPTA役員との懇親会・活動発表、生徒会活動への専門的助言。
 - **事例2（別室登校支援）：** 生徒が登校しやすい別室環境づくりに関する検討・助言。
 - **事例3（地域一体型イベント）：** 他中学校等における、広大な敷地の雑草刈りとパンジーの植え付けを兼ねた地域・保護者・同窓会・おやじの会合同イベントの実施。
- **学校評価（年度末評価）の実施方針：**
 - 2月1日開催予定の第4回協議会に向けて学校評価を実施する。経年変化を正確に把握するため、評価項目・内容は例年と同内容で継続実施する。

4. 閉会

次回開催日程 2027年 2月 1日（月）10時～
場所 図書室